

2008年2月29日

厚生労働大臣 舛添要一 殿

J A M

会長 河野 和治

JAM農・建機部会

部会長 岡田 勤

要 請 書

平素より機械・金属産業で働く労働者で組織する産業別労働組合 JAM に対しましてご高配を賜り、感謝申し上げます。

さて、JAM農・建機部会では、かねてから食糧問題について検討を続けてまいりました。2007年度は、食料自給率が40%を切り食料の供給に対する不安がますます高まっています。また、相次ぐ加工食品の偽装問題も表面化し、食に対する信頼は、地に落ちた感すらあります。さらには、2008年、年初から中国のギョーザによる薬物中毒事件など人命に関わる重大事件まで発生しています。JAMは、2007年に食の安全と食育についてアンケート調査を実施しました。私たちが危惧していた事が、現実となってしまったことは、誠に遺憾であります。アンケート調査の時点では、まだ、多くの事件は表面化する前でしたが、調査の結果からは、食に対する安全安心が信頼できなくなっているとの意識がすでに圧倒的多数を占めていました。

つきましては、日本国民の食の確保に向けて次の事項について要請いたします。

具体的要請

1、食品表示の分かりやすさへの改善

加工食品の表示に対しては、最も信頼されなければならない事項であるにも関わらず、消費者としてチェックする方法がありません。つきましては、①消費期限等の根拠を証明することの義務付け（試験方法など）、②使用材料の産地表示の義務化、③高齢化社会に伴い表示を大きく見やすくすること、④化学薬品の名前を表示してあっても普通は、理解できないため食品添加物の機能と毒性や複合摂取による副作用などの情報を店頭などで公開し説明が聞けるようにすること、などの改善をお願いします。

2、海外からの輸入に依存しない食料確保

食料の60%以上を輸入に頼ることは、異常としかいえません。海外から輸入する食料については、特に加工したもののチェックが甘いことが露呈しました。市場に出回る前に異常が発見できるように監視体制を強化することは当然として、そもそも、無用な健康被害を避けるため、輸入加工食品に頼らない国内自給の強化を食の安全の面で推進していただきたい。

以上